

## 【今週の注目疾患】

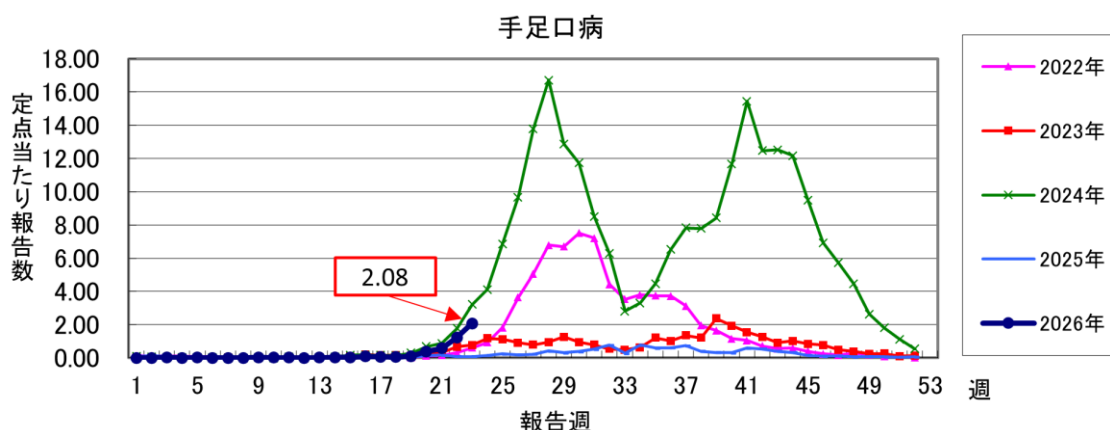
## 《手足口病》

2026年第23週における県内の小児科定点医療機関の定点当たり報告数は、5週連続で増加し2.08（人）となった（図）。国内では、乳幼児を中心に夏季に流行する<sup>1)</sup>ことから、引き続き発生動向に注意が必要である。

第23週に報告された患者227例のうち年齢別では1歳が最も多く117例（52%）、次いで2歳が45例（20%）、1歳未満が31例（14%）であった。

全国では、2026年第22週の定点当たり報告数は1.41（人）であった。特に九州地方で多くなっており、国が定める従来の警報開始レベル（5）を超えている自治体もあった<sup>2)</sup>。

図：2022年から2026年までの県内の手足口病の定点当たり報告数  
(2026年第23週時点)



手足口病は、口の中や、手足に水疱を伴う複数の発しんが出る感染症である。コクサッキーウイルス A16 (CA16)、A6 (CA6)、A10 (CA10)、エンテロウイルス 71 (EV71) などを病原体とする<sup>1,3)</sup>。

潜伏期間は、3日から5日程度である。臨床症状は、口の中、手のひら、足底や足の甲等に2mmから3mmの水疱を伴う複数の発しんが出る。発熱は38度以下のことが多い。多くの場合、3日から7日程度で自然に治るが、まれに髄膜炎、小脳失調症、脳炎といった中枢神経系の合併症のほか、心筋炎、神経原性肺水腫、急性弛緩性麻痺等、重篤な合併症を伴うことがある<sup>3)</sup>。

感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染（便と一緒に排泄されたウイルスが口に入って感染すること）が知られている。特異的な治療法や国内で承認されたワクチンはない。治った後も比較的長い期間、便の中にウイルスが排泄され、また、感染しても発病しないままウイルスを排泄している場合もあることから、日頃の感染対策が重要となる<sup>1,3)</sup>。

特に、手足口病にかかりやすい年齢層の乳幼児が集団生活をしている保育施設等では、感染を広げないために、以下のことに注意してください<sup>3,4)</sup>。

- ・流水と石けんで手洗いをしましょう
- ・タオルの共用を避けましょう
- ・おむつ交換後は排泄物を適切に処理しましょう

■参考・引用

1)国立健康危機管理研究機構：手足口病

<https://id-info.jihs.go.jp/infectious-diseases/hand-foot-mouth-disease/index.html>

2)国立健康危機管理研究機構：IDWR 速報データ 2026 年第 22 週

<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/provisional/2026/22/index.html>

3)厚生労働省：手足口病

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/hfmd.html>

4)厚生労働省：手足口病 感染症対策チラシ

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001281495.pdf>